

## 平成21年度「福井新元氣宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成22年3月末現在)

「福井新元氣宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成21年4月に知事と合意をした「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成22年3月

土 木 部 長 近 藤 幸 次

### I 総括コメント

平成21年9月に新政権が誕生し、社会資本整備については、今後大きな動きがあると思われまます。そのような動きの中でも、今年度は、経済・雇用対策をはじめとした施策、事業を重点的に実施しました。

#### 1 道路交通ネットワークの整備

- 舞鶴若狭自動車道について、小浜西・小浜間は、完成時期が約半年前倒しされ平成23年夏の開通見込みとなり、全線にわたって工事が着実に実施され、小浜・敦賀間は、平成26年度開通に向け、用地買収および工事が着実に実施されています。  
これからも、完成予定時期より一日でも早く開通できるよう、西日本および中日本高速道路株式会社に対し強く要請していきます。
- 中部縦貫自動車道について、永平寺大野道路の未着工区間であった永平寺東・上志比間は、新たに浅見(あざみ)トンネル工事が着手されるとともに、用地買収も進捗しています。平成21年3月に事業化された大野油坂道路の大野東・和泉間は、地元説明会の後、測量、地質調査を開始しました。  
これからも、福井北・大野間および大野東・和泉間の一層の事業推進ならびに残る大野・大野東間、和泉・油坂峠間の早期事業採択に向け全力を尽くします。
- 併せて、県内の主要道路の整備を促進するとともに、既存ストックを有効に活用した橋梁の長寿命化対策、舗装の補修等を進めました。
- これからも、高規格幹線道路の早期整備と既設の道路を的確に維持管理することにより、安全かつ確実な交通の確保を図っていきます。

#### 2 高速交通時代に適合した魅力あるまちづくり

- 福井駅西口の駅前広場の整備、えちぜん鉄道の高架化の協議・調整、幸橋親柱、フェニックス通りなど道路照明のオレンジ色化による夜間景観の創出を進めました。
- 積雪時の円滑な交通を確保するため消雪施設の整備を進めたほか、歩行者や自転車に配慮した歩道の改修を行いました。
- これからも、生活に密着した施設を整備し、高速交通時代に向け、県民が快適に暮らせるまちづくりの推進を図っていきます。

#### 3 自然災害に対する安全・安心の確保

- 足羽川においては、激特事業をはじめとした改修等が完了し、治水安全度が向上しました。しかし、足羽川の治水対策には、足羽川ダムが必要不可欠であるにもかかわらず検証の対象とされたことから推進に向けた結論を早期に出すよう国に求めています。また、現在事業中の補助ダムについても治水上・利水上必要なダムであり、早期完成を目指し国の支援を求めています。
- 河川改修や土砂災害対策などのハード対策と併せて、ソフト対策もすすめ、雨量、水位情報システム整備が完了しました。また、県内全市町でのハザードマップ作成支援も終了し各自自治体での避難訓練等で活用されています。

- ・ 既存ストック活用の観点から、河道内の流下阻害の恐れのある土砂や雑木等の除去に重点投資を行い、計画を前倒して実施しました。  
これからも、自然災害に対する県民の安全安心の確保を図っていきます。

#### 4 「福井ランドスケープ構想」の具体化

- ・ 「福井県景観づくり懇談会」の開催など、市町が行う景観資源の発掘や地域住民の景観づくり活動などを支援してきました。
- ・ 屋外広告物条例および同施行規則の改正、屋外広告物監督処分基準の策定、デザイン等に係るガイドラインの策定を行い、良好な景観の形成が図られるよう努めました。
- ・ 伝統的民家の認定や伝統的民家および歴史的建造物の保全・改修等への支援を行うとともに、伝統的工法を次世代に継承するための「ふくい棟梁講座」の開催を支援しました。また、伝統的民家技能者(大工)の登録および伝統的民家技能者(左官)の新たな登録を行い、その情報をホームページ等で紹介しました。  
これからも、県、市町一体となって、自然、歴史、文化などが織りなすふくいの景観を守り育てていきます。

## II 「政策合意」項目に係る結果について

- ・別紙「平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)」のとおり

# 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p>1 経済・雇用対策</p> <p>◇ 中小企業の経営支援</p> <p>・公共工事の早期発注</p> <p>公共工事の地元発注、早期発注に努めることで経済・雇用対策の効果を早期に発現するために、平成21年度について上半期で発注率8割台を確保します。また、課題解決プロジェクトチームを編成し、より効率的な発注方策を検討、実施します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>経済・雇用対策の効果を早期に発現するために、課題解決プロジェクトチームを5月～10月に計8回開催し、地元発注や早期発注の促進に努めました。</p>	
<p>〔平成21年度上半期発注率 80%以上 (平成20年度上半期 69%)〕</p>		<p>〔平成21年度上半期発注率 87.9% (前年同期を19ポイント上回る)  県発注工事における県内業者が受注した割合 96.6% (前年度89.3%)〕</p>	
<p>・中小企業の新分野進出に対する支援</p> <p>中小企業の新分野進出を支援するため、低利融資や保証制度の特例、補助金といった各種支援制度について、各業界の組合や関係団体、ふくい産業支援センター、商工会議所、商工会等を通じて周知し、新分野進出企業を創出します。</p> <p>特に建設業については、建設業連合会や産業支援センターに設置されている相談窓口などの各種支援制度を建設業者に周知し、利用を促します。</p> <p>さらに、課題解決プロジェクトチームを編成して、企業の新分野進出を支援する体制づくりを進め、具体的な支援の方策を検討します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>中小企業の新分野進出を促進を図るため、ふくい産業支援センター、商工会議所、商工会、金融機関などを通じて、経営革新関連などの支援制度の周知を図りました。</p> <p>また、建設業については、相談窓口、融資制度、補助制度等の国、県等の支援制度を周知するため、7月と3月の2回、建設業者に対して説明会を開催し、利用を促進しました。</p> <p>更に、プロジェクトチームにおける議論を基に、新年度から、建設業者の新分野進出を支援するため、助成金や融資制度を創設するほか、入札参加資格の特例措置により本業への支援を実施することといたしました。</p>	
<p>〔経営革新承認を受けて新分野に進出する中小企業者数 381社 (平成11～20年度 341社) (40社の増)  うち建設業者数 35社 (平成11～20年度 30社) (5社の増)  建設業者の新分野進出を支援する制度を普及・周知するための説明会の参加者数 600社 (平成20年度 595社)〕</p>		<p>〔経営革新承認を受けて新分野に進出する中小企業者数 381社(40社の増)  うち建設業者数 38社(8社の増)  建設業者の新分野進出を支援する制度を普及・周知するための説明会の参加者数 867社〕</p>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p><b>2 営業力の強化</b></p> <p>◇ 「ふるさと営業」政策</p> <p>・空き家情報の提供</p> <p>本県に移住を希望される方や子育て世帯の住まいに、地域の優良な空き家を、持家としてだけでなく、借家としても提供できるように、「ふくい空き家情報バンク」への登録を拡充します。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>市町や不動産事業者と協力し、本県に移住を希望される方や子育て世帯の住まいに空き家を持ち家としてだけでなく、借家としても提供できるように、平成21年7月に「ふくい空き家情報バンク」を拡充しました。</p> <p>また、東京や大阪で開催される就農や就職セミナーを通じて、本県に移住を希望される方等に空き家の情報提供を行いました。</p>	
<p>〔「ふくい空き家情報バンク」への新規登録戸数 150戸 (平成20年度末の登録戸数 55戸)〕</p>		<p>〔「ふくい空き家情報バンク」への新規登録戸数 229戸(86戸の増) うち持家147戸 うち賃貸 82戸〕</p>	
<p><b>3 女性活躍社会</b></p> <p>◇ 日本一の子育て支援システム</p> <p>・歩行者や自転車に配慮した道路空間の再整備</p> <p>交通死傷事故件数が多く、歩行者等の安全な通行を確保する必要性の高い「あんしん歩行エリア」内の通学路の歩道整備や段差解消を実施し、安全確保に努めます。</p> <p>また、引き続き、段差解消や路面表示などを行い、自転車走行環境の整備を進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>福井市明新地区など7か所(3km)において、安全で安心な通学路の確保を図りました。</p> <p>また、自転車の利用が多いまちなかにおいて、歩道の段差解消や路面に自転車専用レーンの表示を行い、自転車走行環境の改善を図りました。</p>	
<p>〔あんしん歩行エリア内の整備による安全な通行の確保 38km (平成20年度末 35km) (3kmの増)〕</p> <p>〔自転車レーンの整備による安全な走行空間の確保 平成21年度完成 約1.5km (福井市大和田地区、敦賀市川西・川東地区) 平成21年度新規着手 約4km (フェニックス通り、さくら通り、芦原街道～足羽山周辺)〕</p>		<p>〔あんしん歩行エリア内の整備による安全な通行の確保 38km(3kmの増) 福井市明新地区、大野市越前大野地区、鯖江市神明地区など〕</p> <p>〔自転車レーンの整備による安全な走行空間の確保 福井市大和田地区、敦賀市川西・川東地区 1.5km フェニックス通り、さくら通り、芦原街道～足羽山周辺〕</p>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p>4 日本一の安全・安心の確保</p> <p>◇ 自然災害に対する安全・安心の確保</p> <p>・ハザードマップと避難体制の整備</p> <p>ハザードマップの作成支援や土砂災害警戒区域等の指定を行い、危険箇所の情報を市町の防災計画に的確に反映させ、消防団や自主防災組織の防災訓練に活用します。</p> <p>また、避難に必要な情報を迅速に伝達するため、雨量、水位などのリアルタイム情報をインターネット、携帯メールで配信します。</p>		<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>福井市、勝山市、池田町および高浜町によるハザードマップの作成が完了し、県内のすべての市町で作成を終えました。</p> <p>また、ハザードマップを市町の防災体制に反映させるため、各地区でマップを活用した防災訓練が実施されるなど、その活用を推進し地域防災力の向上を図りました。</p> <p>土砂災害警戒区域等の指定については目標に至りませんでした。梅雨や台風のように地域住民の土砂災害への関心が高まる時期に地元説明会を多く開催するなど工夫し、指定を促進します。</p>	
<p style="font-size: 2em;">{</p> <p>洪水・土砂災害ハザードマップの作成 17市町 (平成20年度末 13市町) (4市町の増 全市町で作成完了)</p> <p>土砂災害警戒区域等の指定数 10,391か所 (平成20年度末 7,891か所) (2,500か所の増)</p> <p style="font-size: 2em;">}</p>		<p style="font-size: 2em;">{</p> <p>洪水・土砂災害ハザードマップの作成 17市町 (4市町の増、福井市、勝山市、高浜町、池田町)</p> <p>土砂災害警戒区域等の指定数 9,744か所(1,853か所の増)</p> <p>マップを活用した防災訓練 5月に永平寺町 6月に小浜市(江古川地区、熊野地区、津島地区)、鯖江市 8月に越前市 他</p> <p style="font-size: 2em;">}</p>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p>・防災対策の整備促進</p> <p>県内の各河川について、治水対策の現状の把握・課題の抽出を行い、防災対策をレベルアップします。</p> <p>治水対策が必要な河川については、河床の掘削や護岸の河川改修を実施するとともに、土砂の浚渫を計画的・効率的に行います。</p> <p>また、土砂災害の危険性が高い箇所において、砂防えん堤などの対策工事を実施します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県内の3河川について、治水対策が完成しました。</p> <p>※足羽川は、激特事業による河川改修が完成しましたが、足羽川ダムとセットで所要の治水安全度が確保されるものがあり、ダムの事業推進を国に働きかけていきます。</p> <p>浚渫については、浚渫計画を前倒しし、前年度実績の3倍強となる約1.5倍の15.5万m<sup>3</sup>浚渫を行いました。</p> <p>また、おおい町名田庄の地藏谷川や福井市縫原地区など23か所で、砂防えん堤などの土砂災害対策工事を完了しました。</p>	
<p>必要な治水対策が完成する河川数 6河川 (平成20年度末 3河川) (3河川の増)</p> <p>河川における浚渫促進 10万m<sup>3</sup> (平成20年度 4.2万m<sup>3</sup>)</p> <p>土砂災害対策工事の実施により土砂災害を防止する箇所数 78か所整備 (平成20年度末 63か所整備) (15か所の増)</p>		<p>必要な治水対策が完成する河川数 6河川 (3河川の増: 足羽川(激特)、鹿藪(かひる)川、南川)</p> <p>河川における浚渫促進 15.5万m<sup>3</sup></p> <p>土砂災害対策工事の実施により土砂災害を防止する箇所数 86か所(23か所の増)</p>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p>・足羽川ダムの整備促進</p> <p>足羽川ダムについては、早期に工事に着手できるよう、環境アセスメント手続きおよび補償関係調査の推進を国に働きかけます。</p> <p>また、水源地域対策特別措置法に基づく水源地域整備計画の策定を国、町と協力して進めます。</p> <p>国、県、池田町で構成する足羽川ダム建設事業推進協議会を通して、ダム事業のコスト縮減に取り組みます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>足羽川ダム建設事業促進協議会等を通じて、国に働きかけた結果、環境アセスメント手続きやおよび補償関係調査が推進されました。水源地域整備計画については、国等と協議を進めました。</p> <p>昨年末、国は、足羽川ダムを検証対象ダムとし、平成22年度において新たな段階となる用地買収に着手しないこととしました。</p> <p>今後、国に対して、有識者会議の結果を受けて行う検証を早急に終え、推進に向けた結論を早期に出すよう求めていきます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>国の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年12月3日 「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」発足 検証の基準や進め方のとりまとめはH22年夏頃</li> <li>・平成21年12月25日 本体工事に着工していないダムを検証対象ダムに区分し、 検証対象ダムはH22年度新たな段階に入らない。</li> </ul> </div>	
<p>・道路雪対策</p> <p>除雪対策としては、緊急性の高い路線から順次消雪施設を整備するとともに、降雪期前にパトロールを実施し、積雪によって道路に倒れかかるおそれのある木の事前伐採を行い、積雪時の円滑な交通を確保します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>大雪時に緊急通行車両の通行に支障がある区間などを中心に消雪設備を整備するとともに、立木の事前伐採など、自動車通行の安全を確保しました。</p> <p>また、歩行者の安全を確保するため、水溜りなどにより歩行が困難な市街地の交差点(20か所)について、優先的に排雪、排水対策を行いました。</p> <p>さらに、済生会病院などの救急医療機関周辺道路について、市町とも協力し、除雪出動基準を強化しました。</p> <p>高速道路については、ETCの休日特別割引による交通量の増加に伴い、スリップ事故等の増加が予想されたため、高速道路株式会社と協議し、タイヤチェック等を強化しました。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>消雪設備の整備による円滑な交通の確保</p> <p style="text-align: center;">302km</p> <p>(平成20年度末 294km)</p> <p style="text-align: center;">(8kmの増)</p> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>消雪設備の整備による円滑な交通の確保</p> <p style="text-align: center;">302km (8kmの増: 福井朝日武生線など)</p> <p>(平成20年度末 294km)</p> </div>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p>・木造住宅の耐震化</p> <p>木造住宅の耐震化を促進するため、耐震診断や補強プランの作成、耐震改修工事に対する支援を、市町と連携して推進します。</p> <p>また、耐震改修への助成に地域住宅交付金を十分に活用できるよう、国に働きかけます。</p> <p>さらに、県民の耐震化への意識高揚を図る説明会や、建築関係団体と協力して建築士等の技術力向上のための講習会を開催します。</p>		<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>耐震診断とあわせて補強工事概要や概算費用を示した補強プランの作成および耐震改修工事に対し助成しました。</p> <p>また、耐震改修工事の現場見学会や木造住宅耐震診断等講習会を開催し、住宅の耐震化の必要性を説明しました。</p> <p>来年度は、国の住宅版エコポイント制度により喚起されるリフォーム需要を受けて、省エネルギーフォームにあわせて耐震改修を行う場合の補助金額を増額することで、耐震化が図られる木造住宅戸数の増加を図っていきます。</p>	
<p>〔耐震診断・補強プランが作成される木造住宅戸数 2,037戸 (平成20年度末 1,787戸) (250戸の増)〕</p> <p>耐震化が図られる木造住宅戸数 120戸 (平成20年度 59戸)</p>		<p>〔耐震診断・補強プランが作成させる木造住宅戸数 2,039戸 (252戸の増)〕</p> <p>耐震化が図られる木造住宅戸数 77戸</p>	
<p>5 高速交通時代のにぎわい交流まちづくり</p> <p>◇ 高速交通ネットワークの整備促進</p> <p>・舞鶴若狭自動車道の整備促進</p> <p>舞鶴若狭自動車道については、未買収の用地の取得を促進するとともに、平成23年度の部分開通予定(小浜西・小浜間)および平成26年度の開通予定(小浜・敦賀間)をそれぞれ一日でも早めるため、高速道路株式会社に強く働きかけます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>小浜西・小浜間においては、全ての用地買収が完了し、完成時期が約半年前倒しされ平成23年夏の開通見込みとなり、工事が全線にわたって順調に進んでいます。</p> <p>小浜・敦賀間においては、平成26年度の開通に向け、約100%の用地買収が完了し、工事が順調に実施されています。</p> <p>完成予定時期より一日でも早く開通できるよう、西日本および中日本高速道路株式会社に対して、地域の実情や必要性を強く訴えました。</p>	
		<p>〔舞鶴若狭自動車道の状況〕</p> <p>小浜西・小浜間 用地買収100%完了 (11.4km)</p> <p>小浜・敦賀間 用地買収約100%完了 (39.0km)</p> <p>主な提言活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「敦賀舞鶴間道路整備促進期成同盟会」提言活動 8月3日</li> <li>・県提言活動 12月24日</li> </ul>	

# 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p>・中部縦貫自動車道の整備促進</p> <p>中部縦貫自動車道については、永平寺大野道路の早期全線整備を引き続き目指すとともに、特に未着工区間の用地買収および工事を促進します。また、平成20年度末に事業化された大野油坂道路の大野東～和泉間の早期着工を国に強く働きかけます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>永平寺大野道路においては、94%の用地買収が完了し、未着工区間であった永平寺東・上志比間では、新たに浅見(あざみ)トンネル工事が着工されるとともに、用地買収も進捗しています。また、勝山・大野間においては、杉俣(すぎまた)トンネルが貫通し、大袋(おおぶくろ)、小矢戸(こやと)トンネル工事等が実施されています。</p> <p>平成21年3月に事業化された大野油坂道路の大野東・和泉間では、7月から地元説明会を実施、8月から測量、地質調査を開始しました。</p> <p>大野油坂道路も含めた中部縦貫自動車道全線の早期開通および予算の確保に向け、広く政府、与党等関係者に対し地域の実情や必要性を強く訴えました。</p>	
		<p>中部縦貫自動車道の状況</p> <p>福井北・大野間 用地買収94%完了</p> <p>大野東・和泉間 (14.0km) 測量、地質調査を開始</p> <p>主な提言活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第一次的高速道路ネットワークの早期連結を目指す9県知事会議」政策提言 11月19日</li> <li>・「中部縦貫自動車道建設促進福井県協議会」意見交換 1月14日</li> </ul>	
<p>◇ 県内の道路交通ネットワークの整備・保全</p> <p>・県内主要道路の整備促進</p> <p>県内の主要道路については、高規格幹線道路と連結する基幹的な道路ネットワークを優先し、整備に努めます。事業の執行に当たっては、県民の利便性、効果、効率性、優先度を見極めて県民とのコミュニケーションを十分とりながら進めていきます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「道づくり協議会」を通じ、住民との意見交換を行い、いただいた意見を事業に反映するよう努めました。</p> <p>また、中部縦貫自動車道の整備促進に関し、職員が小・中学生を対象とした「出前講座」を開催するなど県民へのPR活動を行いました。</p>	
<p>主要道路の供用路線数 17路線 (平成20年度末 11路線) (6路線の増: 国道162号、305号、寺武生線など)</p>		<p>主要道路の供用路線数 17路線 (6路線の増)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道162号 阿納尻～田烏バイパス (小浜市八代～田烏) 7月17日</li> <li>・県道佐田竹波敦賀線(馬背峠トンネル) (敦賀市縄間～美浜町竹波) 11月11日</li> <li>・国道8号赤萩防災・国道305号赤萩～河内バイパス(南越前町具谷～大良・赤萩～河内) 12月6日</li> <li>・県道舟橋松岡線(福井市北野上町～永平寺町松岡室) 3月19日</li> <li>・県道寺武生線(府中大橋)(越前市北府～稻寄町) 3月21日</li> <li>・国道305号(福井市小丹生町) 3月30日</li> </ul>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p>・既存の道路ストックの有効活用            県が管理する2, 346橋(2m以上)の橋梁について平成20年度に引き続き長寿命化修繕計画の策定を進めるとともに、調査結果に基づき、緊急を要する橋梁から耐震、塗装等の予防保全対策を実施します。</p> <p>また、既存の道路敷地を有効に活用して交差点に右折レーンを設置するなど、さらに渋滞緩和を進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>全橋梁の長寿命化修繕計画策定(22年度)に先立ち、15m以上の橋梁(705橋)のうち、劣化の著しい橋梁(342橋)について耐震、塗装等の予防保全対策を進めており、今年度までに、経済対策として追加した54橋を含む90橋の対策に着手しました。</p> <p>また、国道416号の大願寺陸橋西詰め交差点などにおいて、車線の幅を見直して右折レーンを確保することにより、新たに10か所で交差点の円滑な通行が可能となりました。</p>	
<p>橋梁の長寿命化保全対策 36橋</p> <p>渋滞を緩和する主要交差点数 29か所            (平成20年度末 22か所)            (7か所増)</p>		<p>橋梁の長寿命化保全対策 90橋(うち31橋完了)            長寿命化保全対策の前倒し着手率 26.3%(90/342橋)            (上新橋(国道158号福井市朝谷町)、九頭竜橋(福井丸岡線福井市舟橋町)など)</p> <p>渋滞を緩和する主要交差点数 32か所(10か所増)            (国道416号 福井市大願寺陸橋西詰め交差点、国道158号 福井市高尾口交差点 など)</p>	
<p>◇ 新幹線時代を迎えるまちづくり            ・福井駅西口の整備            西口駅前広場については、交通結節機能の向上を図るため、電車やバスが乗り入れられるよう広場の拡張整備を進めます。</p> <p>また、西口中央地区の再開発については、駅周辺の様々な動き等も踏まえ、事業主体である福井市等関係者と総合的・長期的な視点から議論し、協力していきます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>西口駅前広場のうち、広場北側については4月30日からタクシー、自家用車の乗り入れを開始し、広場南側については5月末から暫定の歩行者空間として利用しています。</p> <p>また、西口中央地区の再開発については、昨年6月に福井市が設置した福井駅西口中央地区市街地再開発事業委員会に県も参加して議論を進め、分棟型を前提に、新たな事業参画者としてNHK福井放送局の誘致に取り組むことになりました。県としては、引き続き再開発ビルの全体像をはじめとする課題について、市と共に議論していくとともに、県としての支援可能性についても検討していきます。</p>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p>・えちぜん鉄道勝山永平寺線の高架による福井駅乗入れ 高架による福井駅への乗入れについては、高架の構造、施工方法、都市計画変更の内容等について、国や関係機関と引き続き協議を行い、事業化に向けた手続きを進めます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。 勝山永平寺線の高架化については、新幹線事業と密接に関係することから、現行の高架案を基本に構造面、施工面に加え、運行面について、関係者との協議・調整を進めていきます。</p>	
<p>・福井駅西口地下駐車場の利便性向上 福井駅西口地下駐車場については、管理運営業務推進委員会を通じて指定管理者と緊密に連携し、JR福井駅周辺におけるイベント広報を積極的に行い集客を図るほか、定期券利用の促進、100円単位の割引券導入による利便性向上などにより利用促進を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標にはいたりませんでした。 今年度は、①場内案内放送の活用やラジオによる広報、②定期券利用の促進、③少額の買物客の利便性向上のため100円サービス券の導入、を進めてきたほか、ETC取付けキャンペーンやナイトビュープラン事業期間中の駐車料金割引など、新たなイベントに合わせて割引を行いPRに努めました。 福井市フェニックスまつり期間中には、1日利用台数ではこれまで最高の1日900台を超える利用があったほか、12月以降は1日平均600台を超えるなど利用は増加しています。 今後は、入口看板など駐車場をわかりやすくする工夫や、商店街での買物によりポイントが貯まり、駐車場にも使えるサービスの導入など、商店街・百貨店等との協働により利用促進を図ります。</p>	
<p>1日平均利用台数 600台) 【チャレンジ目標 620台】 (平成20年度の1日平均利用台数 532台 (平成21年3月の1日平均利用台数 608台)</p>		<p>1日平均利用台数 582台 (平成22年3月の一日平均利用台数 644台) (過去月1日平均利用台数最高)</p>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項 目		実 施 結 果	
<p>・都市機能集約型のまちづくり 「コンパクトで個性豊かなまちづくりの推進に関する基本的な方針」に基づき、市町と連携して中心市街地の活性化を図るとともに、大規模集客施設等の適正立地を進めることを目的とした都市計画を策定する関係市町に対し、必要な支援を行います。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>12月に敦賀市の「中心市街地活性化基本計画」が内閣総理大臣の認定を受け、活性化を目的とした各種事業が始まりました。</p> <p>また、大規模集客施設の適正立地の誘導を検討している市町に対して、必要な助言を行いました。</p>	
<p>〔新たに内閣総理大臣の認定を受けて 中心市街地活性化を進める市町 4市 (平成20年度末 3市) (1市の増)〕</p>		<p>〔新たに内閣総理大臣の認定を受けて 中心市街地活性化を進める市町 4市(1市の増) (平成20年度末 3市)〕</p>	
<p>◇ 敦賀港、福井港の利用促進 ・敦賀港の利用促進 敦賀市、(社)敦賀港貿易振興会などの関係機関とともに、県内外の企業に積極的にポートセールスを実施します。併せて船会社に対して中国航路等の就航を働きかけ、外貿コンテナ貨物取扱量の増加を図ります。</p> <p>また、鞠山南多目的国際ターミナルについては、平成22年秋の本格供用開始に向け、埠頭用地等の整備を進めるとともに、民間活力を活かした管理運営組織を11月を目途に設立します。</p>		<p>[成果等] 目標にはいたりませんでした。</p> <p>外貿コンテナ貨物取扱量の増大と航路の拡充を目指してポートセールスを実施した結果、貨物取扱量は前年より33%増の7,991TEUと2年連続して増加し、目標をほぼ達成しましたが、世界同時不況に伴う物流の減少により、チャレンジ目標にはいたりませんでした。</p> <p>内貿では、内航フェリーに対する支援により、11月から3月までの有人トラック利用台数が前年同期に比べ約35%増加しました。</p> <p>鞠山南多目的国際ターミナルについては、今年秋の本格供用開始に向け、舗装や荷役機械などの整備を進めています。</p> <p>また、新ターミナルの管理運営を行う第三セクター「敦賀港国際ターミナル株式会社」を県、敦賀市、県内外の物流事業者等の出資により11月に設立しました。</p> <p>新会社では、大手物流企業から海外経験が豊富な人材を採用し、民間のノウハウ、ネットワークを活かしたポートセールスを県、敦賀市と一体になって実施することにより貨物集荷力を高めるとともに、荷主ニーズに対応した港湾サービスを提供していきます。</p>	
<p>〔敦賀港 外貿定期コンテナ航路貨物取扱量 8,000TEU 【チャレンジ目標 10,000TEU】 (平成20年 6,000TEU)〕</p> <p>※TEU (twenty-foot equivalent units) : 20フィート(約6メートル) 大のコンテナ</p>		<p>〔敦賀港 外貿定期コンテナ航路貨物取扱量 (平成20年 6,000TEU) 7,991TEU(平成21年)〕</p>	

# 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p>◇ 環境に配慮した社会資本の整備</p> <p>・環境配慮の推進</p> <p>社会資本の整備に当たっては、設計、資材調達および工事の実施などあらゆる面において、環境に配慮した整備の検討、導入を進めます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>環境配慮型公共工事検討委員会で計画や実施状況を審査し、生物の生息環境や景観などに配慮した工事を実施しました。また、雪対策・建設技術研究所で環境に配慮しコスト削減する工法を開発し、実用化しました。今後とも、計画から資材調達、工事実施等のあらゆる段階で環境配慮の視点を取り入れ、社会資本の整備を進めます。</p> <p>（環境に配慮した公共工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足羽川（福井市） 湿地帯を整備して、希少植物のタコノアシの植生を復元（工事期間中はプラントピアに仮移植し、工事後復元） 護岸の覆土を行い在来植物により緑化 水ぎわ部に捨石を設置し、魚のすみかを整備</li> </ul> <p>環境に配慮した新しい技術の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繊維ロープを用いた転落防止柵（敦賀港鞠山南地区）</li> <li>・地中熱を利用した融雪システム（幸橋や福井駅周辺の歩道） 平成20年度土木学会環境賞を受賞（H21.5.29） 舞鶴若狭自動車道上中インター（仮称）のアクセス道路でも導入予定</li> </ul>	
<p>・福井県污水処理施設整備構想の見直し</p> <p>公共下水道、農業集落排水施設等や合併処理浄化槽の整備を効率的に行うため、学識経験者等で構成する検討会を開催し、各市町の実情に最も適した整備手法を検討していきます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>学識経験者等で構成する検討会を開催し、将来の人口・水使用量の減少予測を踏まえ、以下のような構想の見直しの方向性を定めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共下水道、農業集落排水施設等の合併処理浄化槽への変更や既存の公共下水道と農業集落排水施設等の統合など、最も効率的な整備手法を検討すること</li> <li>・長期的な見通しによる経営に基づいた整備計画を作成すること など</li> </ul> <p>今後、この方向性に即して、各市町の実情に最も適した効率的な整備手法の検討を進めていきます。</p>	
<p>・環境に配慮した良質住宅の普及</p> <p>県産材を活用した、断熱性能の高い、優良な在来木造住宅の取得を支援します。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>県産材を活用した断熱性能の高い木造住宅の新築に対する補助制度の適用要件（敷地面積等）の見直しや土木事務所での建築確認申請と補助申請の同時受付などにより利用しやすい制度への改善を行った結果、大幅に申込みが増加しました。また、グリーンニューディール基金を活用し、住宅の省エネルギーリフォームを促進しました。</p>	
<p>（県産材を40%以上活用した高断熱仕様の木造住宅の普及戸数 100戸 （平成20年度 39戸）</p>		<p>（県産材を40%以上活用した高断熱仕様の木造住宅の普及戸数 150戸 省エネルギーリフォーム 145戸</p>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p>・地域との共働による道路、河川環境の向上</p> <p>地域住民、企業等との共働により、河川での草刈・清掃、歩道内の花の植栽、危険箇所の情報提供を行う「川守」「道守」について、地域ぐるみの継続的な活動が行われるよう促進します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「川守」「道守」活動への参加促進を図るため、企業、自治会、商店街等の活動をホームページで紹介しました。特に、全国植樹祭で県内外の多くの人々が訪れたJR福井駅をはじめとする主要な駅周辺、主要道路沿線を重点に花の植栽活動などが広がりました。また、地域住民との共働による河川の浚渫を行うモデル事業は2か所で実施し、併せて、地域住民や内水面漁協、企業の参加による植栽活動のためのスペースを確保しました。(植栽活動は、4月実施予定)</p>	
<p>川守参加者数 75,000人 (平成20年度末 74,580人)</p> <p>道守参加者数 13,000人 (平成20年度末 10,290人)</p>		<p>川守参加者数 75,053人</p> <p>道守参加者数 13,724人</p> <p>地域ぐるみで継続的な活動が行われた事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川守(あわら市市姫「ふるさとの川竹田川をきれいにする会」)</li> <li>・道路植樹樹の除草、花植活動(美浜町久々子など)</li> <li>・歩道、側溝の清掃活動(大野市下丁など)</li> </ul>	
<p>6 夢と誇りのふるさとづくり</p> <p>◇ 「ふくいランドスケープ構想」</p> <p>・景観資源の発掘と活動の推進</p> <p>美しい風景を再発見し守り育てていくため、保全活動など住民等との関わりが見える景観の選定を行う市町を支援します。また、地域住民が市町と協働して行う先進的なモデルとなる景観づくり活動を支援します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>景観の選定を行う市町の支援、および地域住民が市町と協働して行う景観づくり活動の支援を行いました。県、市町の景観行政の推進のため「福井県景観づくり懇談会」を開催し、専門家との意見交換など、市町を支援しました。市町の景観計画の策定、景観条例の制定に必要な支援、助言を行いました。</p>	
<p>守り育てるべき景観の選定を行う市町数 9市町</p> <p>先進的なモデルとなる景観づくり活動を行う団体数 3団体</p>		<p>守り育てるべき景観の選定を行った市町数 12市町 (福井市、敦賀市、小浜市、大野市、勝山市、鯖江市、あわら市、越前市、坂井市、永平寺町、美浜町、高浜町)</p> <p>先進的なモデルとなる景観づくり活動を行った団体数 3団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小浜市西組地区 (旧丹後街道沿いの軒先や路地に手作りの行灯型照明を設置)</li> <li>・勝山市本町通り地区 (建物修景および景観樹木の修復)</li> <li>・勝山市平泉寺地区 (平泉寺旧境内の史跡見学路の石積み復元)</li> </ul>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項 目		実 施 結 果	
<p>・魅力ある夜間景観の創出 福井市が策定した夜間景観ガイドラインに沿って、市や民間団体などと連携し、道路照明のオレンジ色化等を進めるとともに、夜間景観ウォークを実施します。</p> <p>〔新たな夜間景観施設 幸橋の親柱（橋の四隅に立つ柱）〕</p> <p>道路照明のオレンジ色化 11.0km （平成20年度末 5.9km） （5.1kmの増：フェニックス通り（裁判所前～田原町、大名町～毛矢）、芦原街道（松本通り～九十九橋）、城の橋通り（幸橋北詰～柴田神社）など）</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>中心市街地の道路照明のオレンジ色化等を進めるとともに、新たな夜間景観施設として幸橋親柱の整備を進めました。 また、福井市等と連携して夜間景観ウォークを実施し、参加者に夜間の散策を楽しんでいただきました。</p> <p>〔新たな夜間景観施設 幸橋の親柱（橋の四隅に立つ柱） 5月末完成〕</p> <p>道路照明のオレンジ色化 11.0km （5.1kmの増：福井市フェニックス通り（裁判所前～田原町、大名町～毛矢）、芦原街道（松本通り～九十九橋）、城の橋通り（幸橋北詰～柴田神社）など）</p>	
<p>・屋外広告物に係る基準の見直し 良好な景観を保全するため、設置できる案内広告物の個数や範囲を制限するなど、屋外広告物条例を改正します。 また、屋外広告業者への指導・監督を公正かつ客観的に行うための基準や、広告物の色彩、デザイン等に係るガイドラインを策定します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>屋外広告物条例および同施行規則を改正し、平成22年1月1日から施行しました。 屋外広告業者への指導、監督を行う屋外広告業監督処分基準を策定し、平成22年1月から運用を開始しました。 広告物の色彩、デザイン等に係るガイドラインを策定し、平成22年4月から運用を開始しました。</p> <p>〔屋外広告物条例および施行規則の主な改正点 ・禁止地域に設置できる案内広告物の個数・範囲を制限 ・禁止地域に設置できる広告物の点滅照明等を制限 ・壁面広告（自家用）の面積基準を新設 など〕</p>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<p>・標識等の集約化と無電柱化の推進 歩道等の整備に合わせ、移設が必要な標識等については、電柱や照明柱と柱の共有化を行い、道路標識等の集約化を図り景観を阻害している標識を減少させます。 また、福井市中心市街地の主要な道路などにおいて、無電柱化を推進します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>歩道や無電柱化の整備に合わせ、移設が必要な標識等について柱の共有化や既存照明柱への添架等により集約化しました。 また、福井市中心市街地の幹線道路の95%で無電柱化が完成しました。</p>	
<p>〔標識の集約化による標識等の減少 12か所 (平成20年度 15か所)</p> <p>福井市中心市街地における無電柱化 95%に拡大 (平成20年度末 91%)</p>		<p>〔標識の集約化による標識等の減少 12か所 (国道416号(福井北インター周辺(福井市間山町))など)</p> <p>福井市中心市街地における無電柱化 95%に拡大 (フェニックス通り(福井市大名町~幸橋北詰)など)</p>	
<p>・景観影響開発の抑制 土砂採取などによる山の切り崩しについて、砂防や土採取など各法令等に基づく規制対象を拡大するとともに、建設発生土利用促進委員会が中心となって、建設残土、河川等の浚渫土の公共工事間での再利用、公募による民間利用を拡大し、景観に影響を及ぼす開発を抑制します。 また、開発関連要綱等に基づき跡地の緑化を推進します。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>4月1日に改正した福井県砂利採取法事務取扱要綱に基づき、新たな採取場の認可にあたり緑化計画書の作成を指導しました。開発跡地の緑化に向け、引き続きパトロールによる確認と指導を実施します。</p> <p>山の切り崩しが制限される砂防指定地等の指定(12か所)を拡大(累計2,267か所)しました。</p> <p>国、県、市町の発注者間で建設残土の利用調整を行うとともに、中長期の大規模プロジェクトについても、計画段階からの課題を把握し、事業計画策定時に建設残土の工事間利用が円滑に行われるよう調整することとしました。</p>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項 目		実 施 結 果	
<p>・伝統的民家の保存・活用</p> <p>「ふくいの伝統的民家」の認定を進めるとともに、伝統的民家や歴史的建造物、県指定文化財の保全・改修に対する支援を関係市町とともにを行います。</p> <p>また、伝統工法の技能を次世代に継承するために、引き続き棟梁講座を開催するとともに、伝統的技能を習得している建築技能者について広く情報を発信します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>福井固有の伝統的民家の保全と活用のために次のことを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふくいの伝統的民家」の認定(目標件数比約12%増)</li> <li>・伝統的民家、歴史的建造物の保全・改修等に対する支援(15件)</li> <li>・(社)福井県建築組合連合会が開催する「ふくい棟梁講座」を支援(11名受講)</li> <li>・伝統的民家技能者(大工)の登録および伝統的民家技能者(左官)の新たな登録の情報をホームページ等で紹介</li> </ul>	
<p>〔ふくいの伝統的民家認定件数〕</p> <p style="text-align: center;">600件 (平成20年度末 454件) (146件の増)</p>		<p>〔ふくいの伝統的民家認定件数 617件(163件の増)〕</p>	
<p>・街なみ環境の改善</p> <p>街なみ環境整備計画に基づいて市町が実施する、建物の外観の改善、道路や水路の改良等に対し、適切な助言を行い、良好な事例を紹介するなどの支援を行います。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>坂井市三国町湊町地区、大野市城下町地区において、歴史あるまちにふさわしい店舗の外観修復、道路の改修などの支援を行いました。</p>	
<p>〔街なみ環境の改善が図られる地区数〕</p> <p style="text-align: center;">2地区 (平成20年度 2地区) (坂井市三国町湊町地区、大野市城下町地区)</p>		<p>〔街なみ環境の改善が図られた地区数 2地区〕</p> <p>坂井市三国町湊町地区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の路面をアスファルト舗装から石畳に美装化</li> <li>・店舗の外装を板張りに美装化など</li> </ul> <p>大野市城下町地区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塀や越前おおの結楽座(物品販売店舗)の整備</li> <li>・店舗の外装を板張りに美装化など</li> </ul>	

## 平成21年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成22年3月末現在)

### 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	近藤 幸次
項目		実施結果	
<b>7 行財政構造改革</b> <b>◇ 土木3公社の整理合理化</b> <b>・公社合理化の実行</b> 平成22年度の解散に向けて、住宅供給公社の未分譲宅地の販売を推進します。土地開発公社の保有土地についても、精力的に民間企業等への売却を推進します。 また、道路公社においては、解散を含めそのあり方について検討します。		[成果等] 目標にはいたりませんでした。  住宅供給公社の未分譲宅地の販売については、平成19年度以降最多の13区画を販売したが、目標には至りませんでした。今後は、平成22年度末の解散に向けて、宅地の一括売却等による計画的な保有資産の売却を図るなど、着実に準備を進めていきます。 土地開発公社の保有土地については、土地取引も極めて低調にあることから売却には至らなかった。 今後は、公社解散までに売却できるよう努力するが、県の負担軽減に向け、定期借地権の設定などさまざまな処分方法を検討していきます。 道路公社においては、法恩寺山、三方五湖有料道路において、夏休み期間中および9月からの土・日・祝日の通行料金半額や、地域内の観光施設や協賛店でのサービスなどの利用促進策を実施しました。また、道路公社の今後のあり方等について関係者と検討を行いました。今後は引き続き、経営改善を図りながら、収支の状況など公社のあり方を検討します。	
(住宅供給公社未分譲宅地の販売区画数 22区画 (平成20年度 9区画)  土地開発公社の保有土地売却数 3件 (平成20年度 1件)                 )		(住宅供給公社未分譲宅地の販売区画数 14区画  土地開発公社の保有土地売却数 0件                 )	